

—ここがポイント— 似た草の見分けかた

原図 桑原義晴 全国農村教育協会 廣田伸七

湖岸や川岸、湿地などに群生するヨシ。このヨシは人によってアシ(葦)と呼ぶ人もいる。或る時、明治生まれの老植物学者に「ヨシとアシは違う植物ですか?」と質問したことがある、すると先生は「その質問はヨシアシ(善し悪し)だ」と笑って答えられた。

ヨシは万葉の時代にはアシ(葦)と呼ばれていたがこれは「悪し」に通ずるので嫌われ、後世になって「善し」と改められたと言われている。このヨシに似ているのがツルヨシである。ツルヨシは川岸や川原などによく生育し、姿、形、花穂がヨシに似ているのでよく間違がわれる植物である。見分けるポイントにはほふく茎を出すか出さないかにある。ツルヨシは全体の形はヨシよりやや繊細な感じだが、

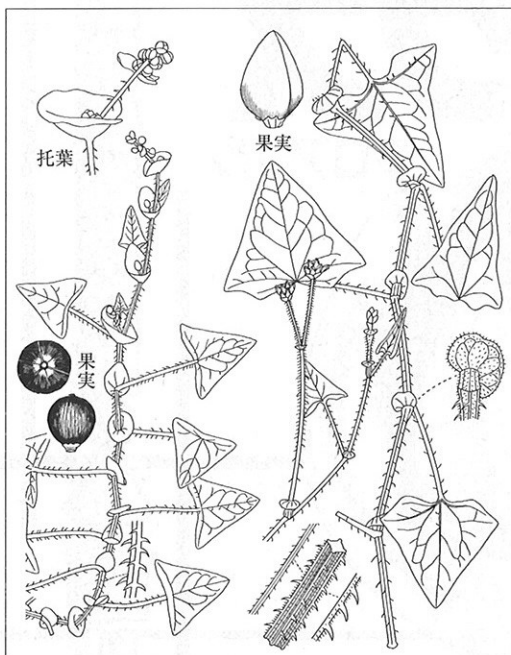
名前のとおり夏に株元から地上に四方にほふく茎(つる)を出し、節々から根と芽を出し新しい株をつくる性質がある。これに対しヨシは地上にほふく茎を出さないのがこれがヨシとツルヨシを見分けるポイントである。(1頁参照)

このように草には名前が似ているもの例えば、ミズハコベとミゾハコベ、コハコベとウシハコベ。また、姿、形が似ていて判別が難しいもの例えばイヌガラシとスカシタゴボウ、ジシバリとオオジシバリといったように数多くの似た草がある。こうした似たもの同士を見分ける場合どこが違うのかポイントが分かると似た草も簡単に見分けることができる。そこで今回は「タデ科植物」で似たものの解説を試みてみた。

●イシミカワ・1年生とママコノシリヌグイ・1年生●

(*Persicaria perfoliata* H. Gross)

(*Persicaria senticosa* H. Gross)



▲左 イシミカワ、右 ママコノシリヌグイ

イシミカワ、ママコノシリヌグイどちらも茎に鋭い下向きの刺があり、独特の托葉をもって一見見分けが難しい種類である。(1頁参照)

—見分け方—

部位	イ シ ミ カ ワ
葉	三角形で基部は浅くくぼむ。葉柄に逆刺があり、葉身の基部より少し離れてつき、やや楕状になる。葉柄基部に円形の托葉があり、茎が中央を貫く形になる。
茎	細くて分枝し、他物に寄りかかる。下向きの刺と細毛があり通常緑色。円柱状。
花	枝先に穂状につく。花柄に腺毛がない。
果実	ほぼ球形で光沢ある黒色。宿存がくは藍色。楕形の托葉がある。

部位	マ マ コ ノ シ リ ヌ グ イ
葉	三角形で基部は心臟形。葉柄に刺と毛が混生し、葉身の基部に直接つく。葉柄基部に円形の托葉があるが茎が中央を貫くようにはならない。
茎	分枝してつる状となり他物に寄りかかる。下向きの刺と細毛があり通常赤色。四角柱状。
花	淡紅色の小花が枝先に頭状に集まる。花柄に毛と腺毛が密生。
果実	丸味ある三稜形で黒色。宿存がくは淡紅色。楕形の托葉はない。

※(注)解説の後に(○頁参照)とあるのはカラー写真の掲載頁を示す。

●ヤナギタデ・1年生とサナエタデ・1年生●

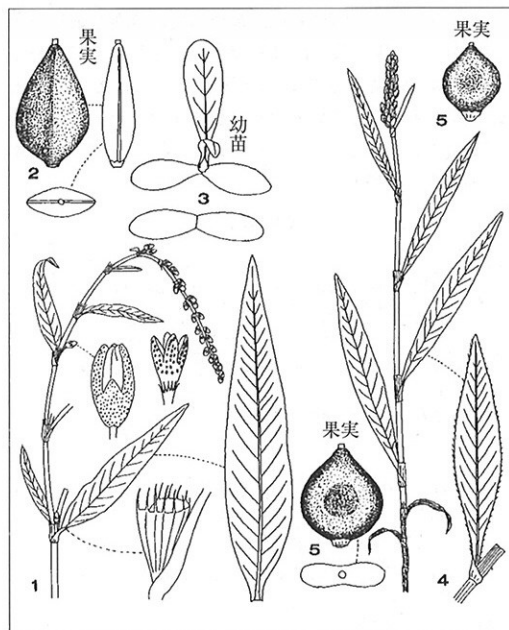
(*Persicaria hydropiper* Spach) (*Persicaria scabra* Mold.)

ヤナギタデは湿地や畦畔、水田などに生育し、サナエタデは水田の畦畔や畑地、湿った場所などに生育するがときに水田にも発生する。ヤナギタデは葉をかむと辛味がある、これはヤナギタデだけの特徴で他のタデ類とはこれだけで識別できる。(1頁参照)

— 見分け方 —

草種	ヤナギタデ
部位	
葉	広披針形で両端が尖り、ヤナギの葉に似る。両面無毛。斑紋はない。葉をかむと辛味がある。葉鞘は筒状で縁に毛がある。
茎	高さ30～70cm。節は太い。無毛。
花	淡紅色～白色。まばらに着く。花穂は途中から垂れ下がる。
果実	両凸形～扁平な3稜形。黒褐色。

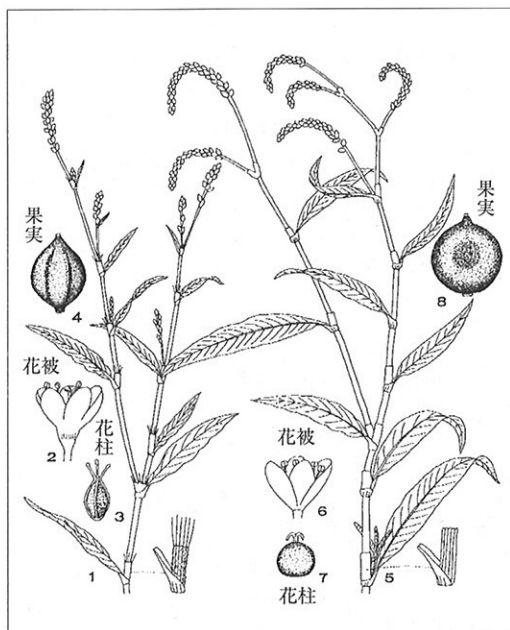
草種	サナエタデ
部位	
葉	披針形で先が尖り、基部は楔形。はじめ綿毛をつけ、縁と両面の中央脈に微毛があり、成長した葉の裏面は無毛。辛味はない。葉鞘は筒状で縁には毛がない。ときに斑紋のあるものもある。
茎	高さ40～60cm。節は太くない。無毛。
花	淡紅色で白色が混じる。密に着き直立する。
果実	円形で扁平、中央は少しくぼみ、黒褐色。



▲1～3 ヤナギタデ、4～5 サナエタデ

●イヌタデ・1年生とオオイヌタデ・1年生●

(*Persicaria longiseta* Kitagawa) (*Persicaria lapathifolia* S.F. Gray)



▲1～4 イヌタデ、5～8 オオイヌタデ

イヌタデは畑地、道ばたやあき地などいたる所に普通に生育し、オオイヌタデも畑地、あき地や川のふちや土手に普通に生育し、イヌタデより大形。イヌタデは夏の畑地の代表的な雑草で、秋に紅紫色の花を多数咲かせ、花の色が赤飯を思わせることから「アカノマンマ」の別名もある。(2頁参照)

— 見分け方 —

草種	イヌタデ
部位	
葉	披針形～広披針形で先端は尖らない。長さ4～8cm。表面に毛のあるものとないものがある。葉鞘の縁に長毛がある。
茎	高さ30～70cm。平滑で円柱形。節は高くない。多くは紅紫色を帯びる。
花	花穂は直立し長さ2～4cm。花被は5裂。雄しべ8個。花柱3個。
果実	3稜形で暗褐色。

草種	オオイヌタデ
部位	
葉	長楕円形で先が次第にせばまり先端は鋭く尖る。長さ10～25cm。ほぼ無毛。葉鞘の縁は通常無毛。
茎	高さ80～160cm。平滑で円柱形。節は高く、赤みを帯び多くの紫色の斑点がある。
花	花穂は下垂し長さ3～8cm。花被は4裂。雄しべ6個。花柱2個。
果実	卵状円形で扁平。両面少しくぼみ紫褐色～赤褐色。

●ミゾソバ・1年生とタニソバ・1年生●

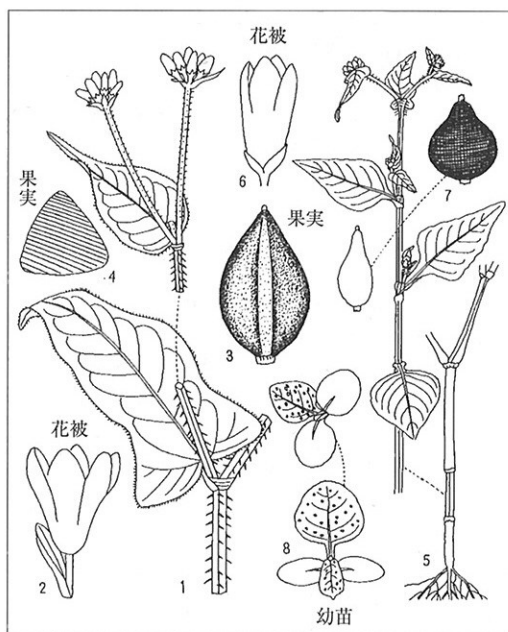
(*Persicaria thunbergii* H.) (*Persicaria nepalensis* H. Gross)

ミゾソバ、タニソバは水田、溝やあぜ、湿潤な畑地などに生育する。葉は秋季には紅葉する。どちらも葉の形がソバに似ていて花が咲いた状況もソバに似ていることから溝に多いので「溝のソバ」からミゾソバ、谷の溪流の近くに生育するソバということからタニソバと名がついた。(2頁参照)

— 見分け方 —

草種 部位	ミ ゾ ソ バ
葉	楕円形、基部は鈍形、長さ3～8cm。両面と柄に刺状の毛がある。葉面にときに斑紋がある。
茎	高さ30～90cm。稜に沿って下向きの刺がある。
花	淡紅色あるいは白色。花被片は5個、花柄には腺毛があってねばつく。
果実	卵状楕円形で3稜がある。

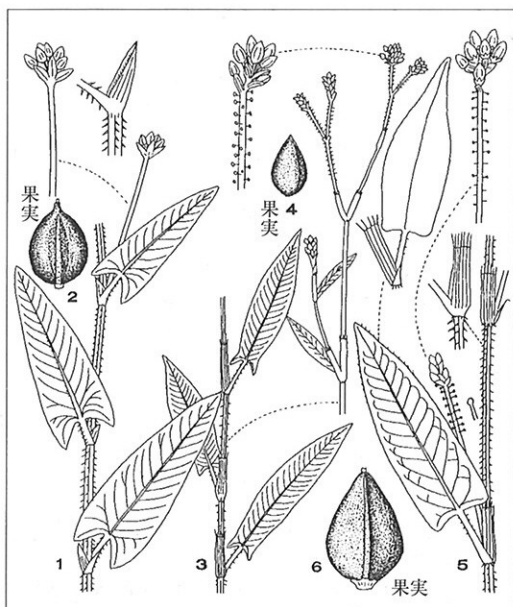
草種 部位	タ ニ ソ バ
葉	卵状三角形、長さ1～5cm。基部は葉柄に流れて翼状になり柄の基部は茎を抱く。葉面に斑紋はない。
茎	高さ30～40cm。平滑で刺はない。
花	白色または淡紅色。花被片は4個、花柄には腺毛があってねばつく。
果実	両凸状の卵形。



▲1～4 ミゾソバ、5～8 タニソバ

●アキノウナギツカミ・1年生 ナガバノウナギツカミ・1年生 ヤノネグサ・1年生●

(*Persicaria sieboldii* Ohki) (*Persicaria hastato-sagittata* Nakai) (*Persicaria nipponensis* H. Gross)



▲1～2 アキノウナギツカミ、3～4 ナガバノウナギツカミ
5～6 ヤノネグサ

アキノウナギツカミ、ナガバノウナギツカミ、ヤノネグサは水田地帯に生育し、茎は蔓状で刺がある。托葉は鞘状・膜質、花被の先は紅紫色、果実は3稜形。(2頁参照)

— 見分け方 —

草種 部位	ア キ ノ ウ ナ ギ ツ カ ミ
葉	披針形をした矢じり形。基部は深心臓形で先は尖り茎をはさむ。托葉は斜切形。縁毛がない。
茎	方形、4稜があり稜に沿って逆向きの刺がある。
花	淡紅色。花軸に腺毛がない。
果実	広卵形で3稜がある。
草種 部位	ナ ガ バ ノ ウ ナ ギ ツ カ ミ
葉	披針形をした矢じり形。基部は鈍形で両端は横に張って尖る。托葉は筒形で縁毛がある。
茎	円柱状。刺は細かくまばら。
花	淡紅色。花軸に腺毛がある。
果実	長卵形で3稜がある。
草種 部位	ヤ ノ ネ グ サ
葉	楕円状をした矢じり形、基部は切形～浅心形。托葉は筒形で縁毛がある。
茎	円柱状、細かい逆向きの刺がある。
花	淡紅色。花軸に腺毛がある。
果実	卵形で3稜がある。

●イタドリ・多年生とオオイタドリ・多年生●

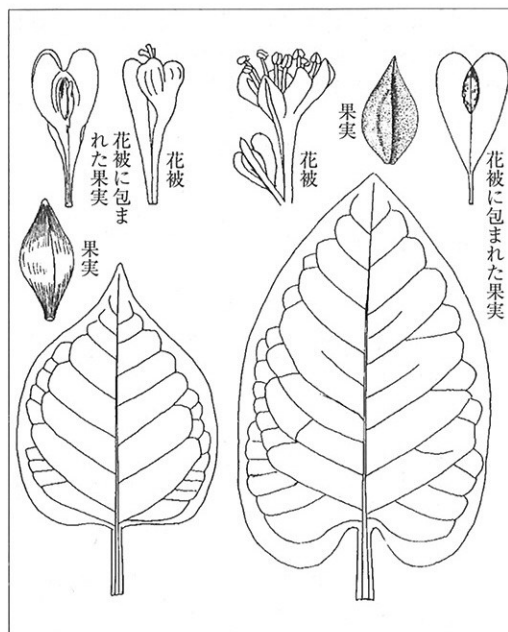
(*Reynoutria japonica* Houtt) (*Reynoutria sachalinensis* Nakai)

イタドリ、オオイタドリともに荒地や草地、道ばたなどに生育する大形の草である。両者ともに雌雄異株。花被片は5個。雄花の雄しべは6個。雌花の外側の花被片は背面に翼をつける。オオイタドリは本州北部や北海道に多く生育する。(3頁参照)

— 見分け方 —

草種 部位	イ タ ド リ
葉	広卵形、長さ5～15cm。基部はほとんど横に切ったような形で両すみは角ばる。
茎	高さ1～1.5m。円柱形で中空。
花	花被片5個。白色。
果実	ひし形状の楕円形で3稜がある。

草種 部位	オ オ イ タ ド リ
葉	卵形、長さ20～30cm。基部は心臟形にくぼみ、先端は尖る。
茎	高さ2～4.5m。円柱形で中空で太い。
花	花被片5個、白色。
果実	3稜形。



▲左 イタドリ、右 オオイタドリ

●ソバカズラ・1年生とツルタデ・1年生●

(*Fallopia convolvulus* A. Love) (*Fallopia dumetorum* Holub)



▲左 ソバカズラ、右 ツルタデ

ソバカズラ、ツルタデはともにヨーロッパ、西アジア原産の帰化植物で畑地やその周辺、道ばたなどに生育するつる性の草。(3頁参照)

— 見分け方 —

草種 部位	ソ バ カ ズ ラ
葉	矢じり状心臟形で、茎部は心臟形。
茎	長さ50～100cm。
花	花被片は5個で緑白色、表面に微細な突起が密生。5個の花被のうち3個の外花被片は花後果実を包むが翼状にならない。
果実	鋭3稜形、3mm。

草種 部位	ツ ル タ デ
葉	長卵形～披針状長卵形、基部は矢じり形～心臟形、左右の突起の先はしばしば尖る。
茎	長さ2～3mと長い。
花	花被片は5個で乳白色～帯赤色。5個の花被片のうち3個の外花被片は花後発達して果実を包み、楕円形の翼状になる。
果実	鋭3稜形、2.7mm。

●ギシギシ・多年生 エゾノギシギシ・多年生 ナガバギシギシ・多年生 ノダイオウ・多年生●

(*Rumex japonicus* Houtt.) (*Rumex obtusifolius* L.)

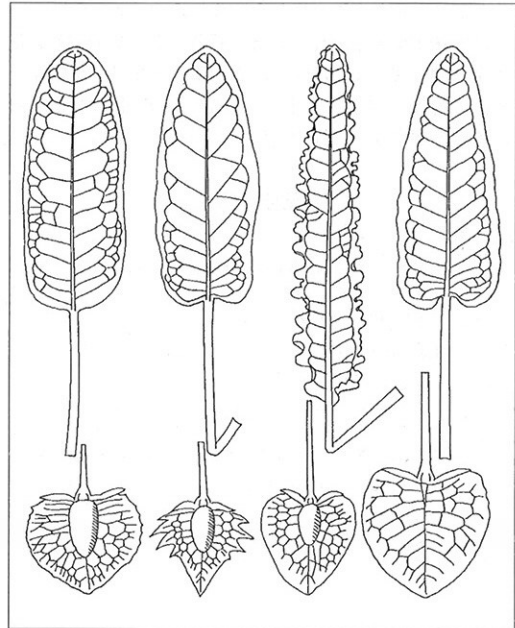
(*Rumex crispus* L.)

(*Rumex longifolius* DC.)

ギシギシ類は全体が似ていて茎・葉では見分けは難しいが、内花被片（果実）はそれぞれに特徴があるので、内花被片で区別できる。（4頁参照）

— 見分け方 —

草種	ギ	シ	ギ	シ
部位				
葉と内花被	葉は長楕円形、縁に波状のしわがあり、基部は円形または心臓形。果実のこぶは発達、内花被片は卵円形で縁に細かい歯がある。			
草種	エ			
部位				
葉と内花被	葉は長楕円形、縁に波状のしわがあり、基部は心臓形。果実のこぶは発達。内花被片は三角形、縁に3～5対の針状歯がある。			
草種	ナ			
部位				
葉と内花被	葉は長楕円形。縁に著しい波状のしわがあり基部は鋭形～心臓形。果実のこぶは発達、内花被片は卵状心臓形で縁はほとんど全縁。			
草種	ノ			
部位				
葉と内花被	葉は長卵形～長楕円状披針形。縁に波状のしわがあり、基部は心臓形。果実のこぶはなく、内花被片は卵状心臓形でほとんど全縁。			



▲左よりギシギシ、エゾノギシギシ、ナガバギシギシ、ノダイオウ

●スイバ・多年生とヒメスイバ・多年生●

(*Rumex acetosa* L.)

(*Rumex acetosella* L.)

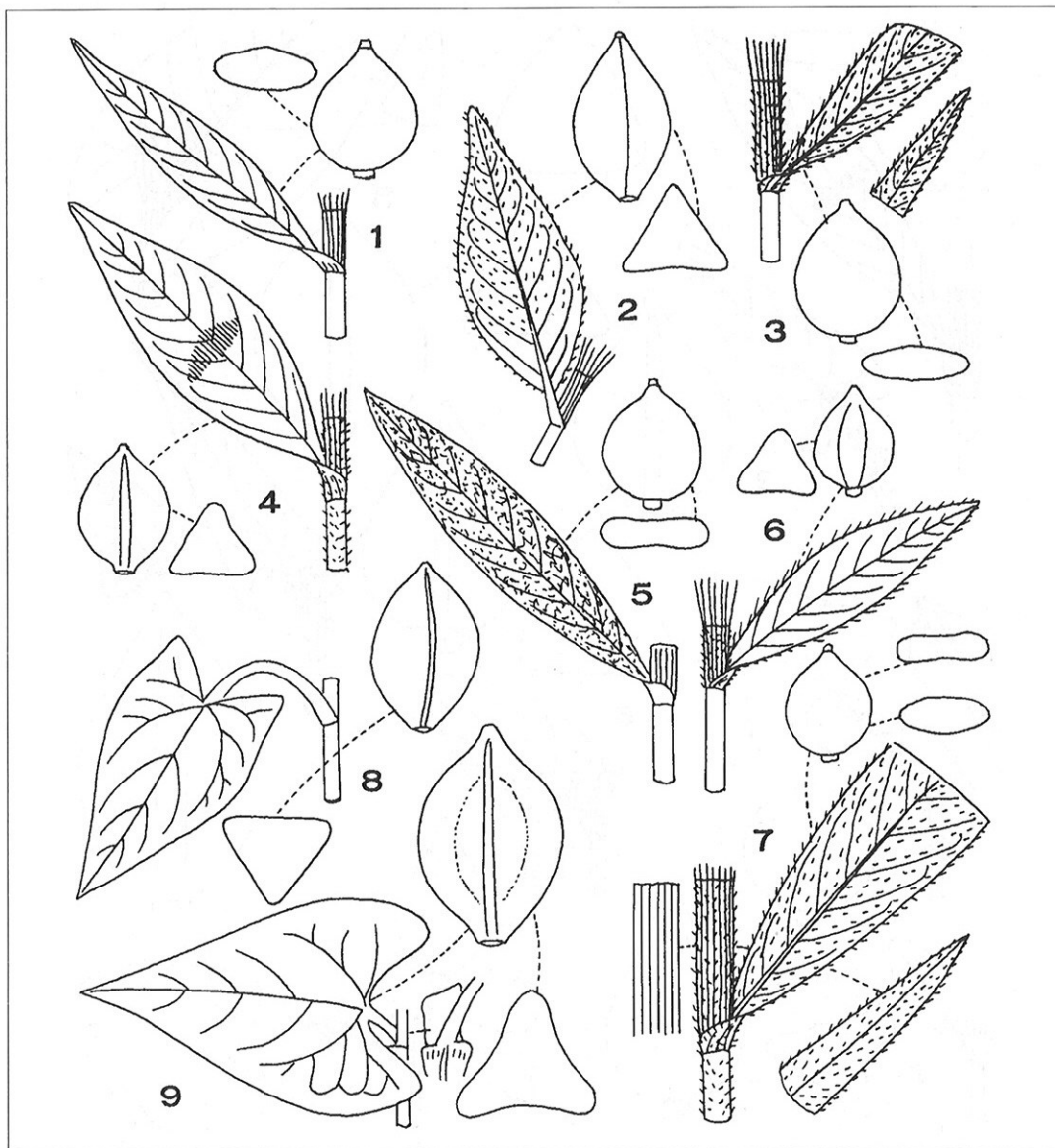


▲1～4 スイバ、5～8 ヒメスイバ

スイバは在来種、ヒメスイバは帰化植物。いずれも道ばた、畦畔、草地、土手やあき地などに生育する。両種とも雌雄異株。花被片は6個、子房は3稜形、雄しべ6個、花柱は3個。茎や葉にシュウ酸（酢酸）を含みかむとスッパイ味がする。（3頁参照）

— 見分け方 —

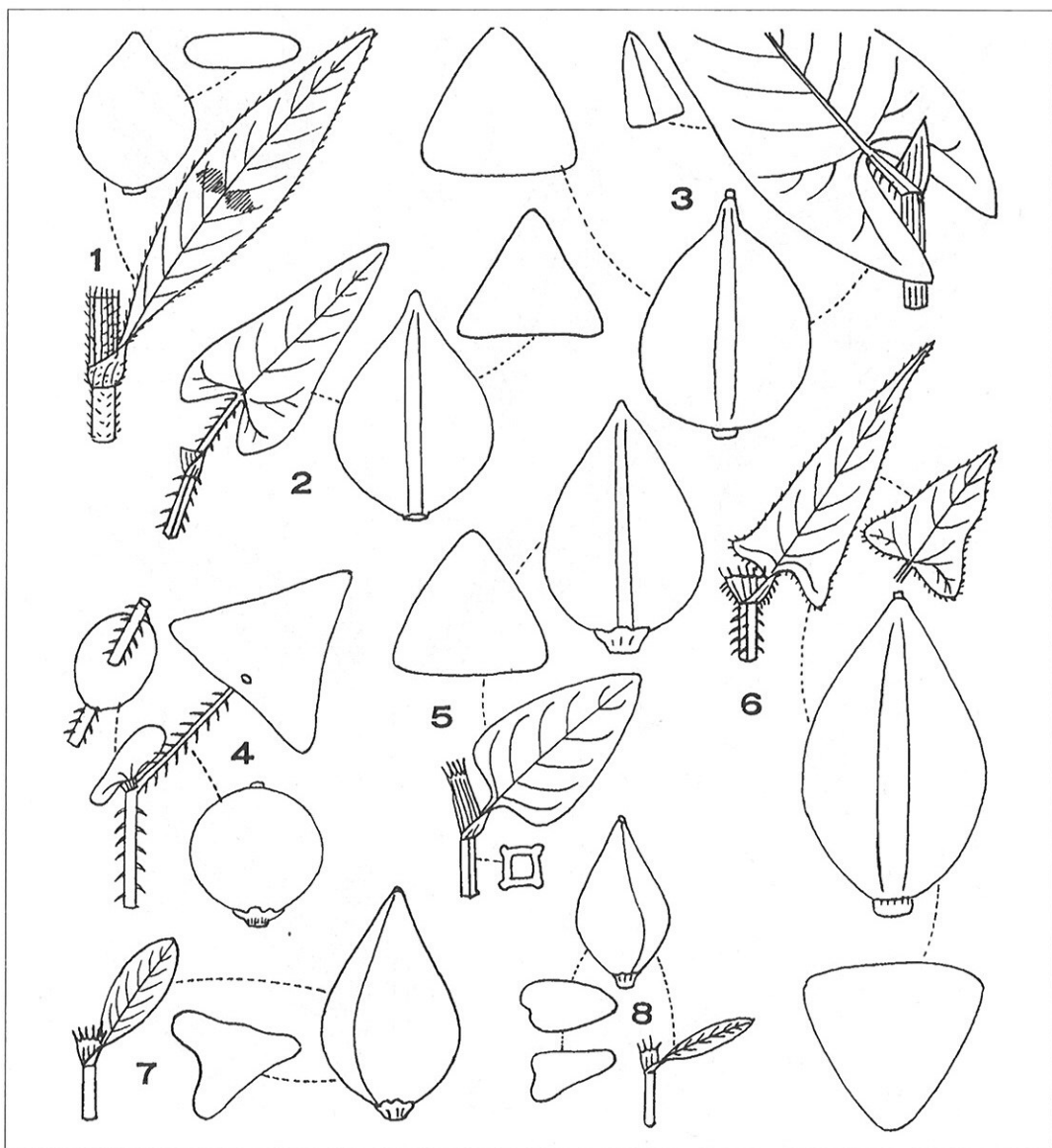
草種	ス	イ	バ
部位			
葉	根出葉は長楕円形で大きく、基部は矢じり形、葉柄は長い。茎の上部の葉は柄がなく基部は茎を抱く。		
茎・根	高さ60～120cm。根は短くて太い。		
花	内花被片は花後大きくなって翼状になり果実を包む。		
果実	鋭い3稜のある楕円形。		
草種	ヒ		
部位			
葉	根出葉は幅の狭い鋭形で基部の両側は急に左右に突出、葉柄は長い。茎の葉は短～無柄になり基部は茎を抱かない。		
茎・根	高さ20～50cm。細長い根茎があり横にはう。		
花	内花被片は花後は大きくならない。		
果実	鈍い3稜のある広卵形。		



●タデ科・タデ属の茎葉と果実（そう果）の比較（1）

畑地や水田に生育する。シロバナサクラタデ（多年生）以外は1年生、花被片は4～5個。

1. ヤナギタデ 花は黄緑色～白色。葉鞘に縁毛がある。葉に辛味がある。果実は凸レンズ形～3稜形。
2. ハナタデ 花は淡紅色。葉にときに斑紋がある。葉鞘の縁にも毛がある。果実は3稜形。
3. シロバナサクラタデ 雌雄異株。花は白色。茎・葉に伏毛。果実はレンズ形～3稜形。根茎がある。
4. ポントクタデ 花は紅色。葉面に斑紋がある。葉鞘の縁に長毛。茎に上向きの毛。果実は3稜形。
5. サナエタデ 花は淡紅色～白色。葉鞘には縁毛がない。葉面にときに斑紋。果実は円形で偏平。
6. イヌタデ 花は淡紅色～紅色。葉鞘の縁に毛がある。果実は3稜形。
7. オオイヌタデ 花は白色～淡紅色。葉鞘の縁に毛がない。葉面にときに斑紋がある。葉に毛がある。果実は卵状円形で偏平。
8. ソバカズラ 花は綠色。つる性。葉は矢じり形心臓形、無毛。葉鞘の縁に毛がない。果実は卵形で鈍い3稜形、花被に翼を着けない。
9. ツルタデ 花は淡綠色。つる性。葉の基部は矢じり形～心臓形。果実は三角状卵形。花被は翼を着ける。（4頁参照）



●タデ科・タデ属の茎葉と果実（そう果）の比較（2）

畑地や水田に生育する1年生。

1. ハルタデ 花は淡紅紫色。葉に斑紋があり茎は有毛。葉鞘の縁毛は短い。果実はレンズ状～3稜形。
2. ウナギツカミ 花は淡紅色。葉鞘の先は斜切形。葉の基部深心臓形。柄・茎に下向きの刺あり。果実は広卵形で3稜がある。
3. アキノウナギツカミ 花は淡紅色。葉鞘の先は斜切形。葉の基部矢じり形。茎に4稜がありこれに刺がある。果実は広卵形で3稜がある。
4. イシミカワ 花は淡緑白色。葉鞘は円形の楕形。葉は三角形楕形。柄・茎に刺あり、果実は球形。
5. ヤノネグサ 花は淡紅色。葉鞘の縁に毛がある。茎に稜があり細かい刺がある。葉の基部切形～浅心臓形。果実は卵形で3稜がある。
6. ミゾソバ 花は淡紅色。葉の基部は鈍形。茎に稜がありそれに沿って刺がある。果実は卵状楕円形で3稜がある。
7. ミチヤナギ 花は緑白色。葉鞘の縁に毛がある。果実は3稜形。
8. ハイミチヤナギ 花は緑白色。果実はやや偏平な3稜形。（4頁参照）

——ここがポイント—— 似た草の見分け方

この口絵は今月号の30頁に掲載した似た草の見分け方の写真です。似た草を対比してあるので本文と併わせて見ていただければ、より一層理解を深めます。



▲ヨシ・地中に地下茎を伸ばす (30頁)



▲ツルヨシ・地上にほふく茎を伸ばして繁殖する(右ほふく茎) (30頁)



▲イシミカワ・托葉は円形で茎が中央を貫く形になる (30頁)



▲ママコノシリヌグイ・托葉基部は茎を抱く形 (30頁)

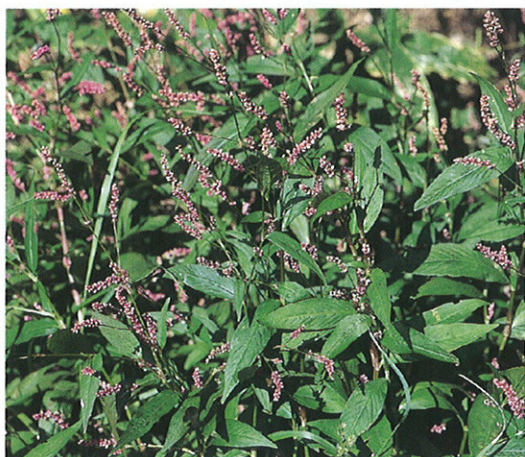


▲ヤナギタデ・葉をかむと辛い味がする (31頁)



▲サナエタデ・葉をかんでも辛くはない (31頁)

(注) 写真説明後の(〇〇頁)はその草の図と解説の掲載頁を示す。



▲イヌタデ・花は紅紫色 (31頁)



▲オオイヌタデ・イヌタデより大形、花は白～紅紫色 (31頁)



▲ミゾソバ・茎や葉柄に刺がある (32頁)



▲タニソバ・茎や葉柄に刺がない (32頁)



▲アキノウナギツカサ・葉の基部は深い心臓形 (32頁)



▲ナガバノウナギツカミ・葉の基部は鉾形で両端は横に張って尖る (32頁)



▲ヤノネグサ・葉の基部は切形～浅い心臓形 (32頁)



▲イタドリ・雄株・全体オオイタドリより小形 (33頁)



▲オオイタドリ・雄株・草丈や葉がイタドリより格段に大形 (33頁)



▲ソバカズラ・花被片は果実を包むが翼状にならない (33頁)



▲ツルタデ・花被片は果実を包み翼状になる (33頁)
(写真提供・塩田惇氏)



▲スイバ・花茎は高さ60~120 cmと大きい (34頁)



▲ヒメスイバ・花茎は高さ20~50 cmと小さい (34頁)



▲セイヨウウツボグサ、23頁帰化植物の話の本文参照



▲ギシギシ (34頁)

▲エゾノギシギシ (34頁)

▲ナガバギシギシ (34頁)

▲ノダイオウ (34頁)



▲ハナタデ・葉にときに斑文がある (35頁)

▲シロバナサクラタデ・雌雄異株で多年生 (35頁)

▲ウナギツカミ・茎や柄に刺がある (36頁)



▲ボントクタデ・花は紅色、葉に斑紋がある (35頁)

▲ハルタデ・葉に斑紋がある (36頁)

▲ミチヤナギ・花は緑白色 (36頁)

▲ハイミチヤナギ・茎は地面を這う (36頁)